

意見交換会（幼稚園・小中学校評議員）における 再編に関する意見

早急ではないが将来的には再編が必要である。
西小も東小も校舎が新しく無理に一か所に集めなくてもよい。

橋を越えての再編はしたくない。
人数が少なくなってもこのままで特色ある学校づくりができるのではないかと。
小中一貫校を考えたかどうか。

原道小学校や豊野小学校も加えてはどうか。

再編ありきで考えるのは良くないが、このままでは厳しい。
大越小と樋遣川小で一つになっても仕方がない。旧4地域の壁をこえて再編すべき。

再編はやむを得ない。旧行政区にはこだわらなくてよい。その際はスクールバスを運行してほしい。
加須北中学校と大利根中学校を選択できるとよい。学校選択制や小中一貫校を考えてもいいのでは。

長期的には再編はやむを得ない。

旧地域は超えて再編する必要がある。

元和小学校は再編の必要はない。

再編は仕方がないが、その際は新設校が必要。吸収合併は理解を得られない。

長期的には、小中一貫校や義務教育学校について考える必要がある。

再編の前に学区の見直しは急務である。学校選択制も考えるべきである。

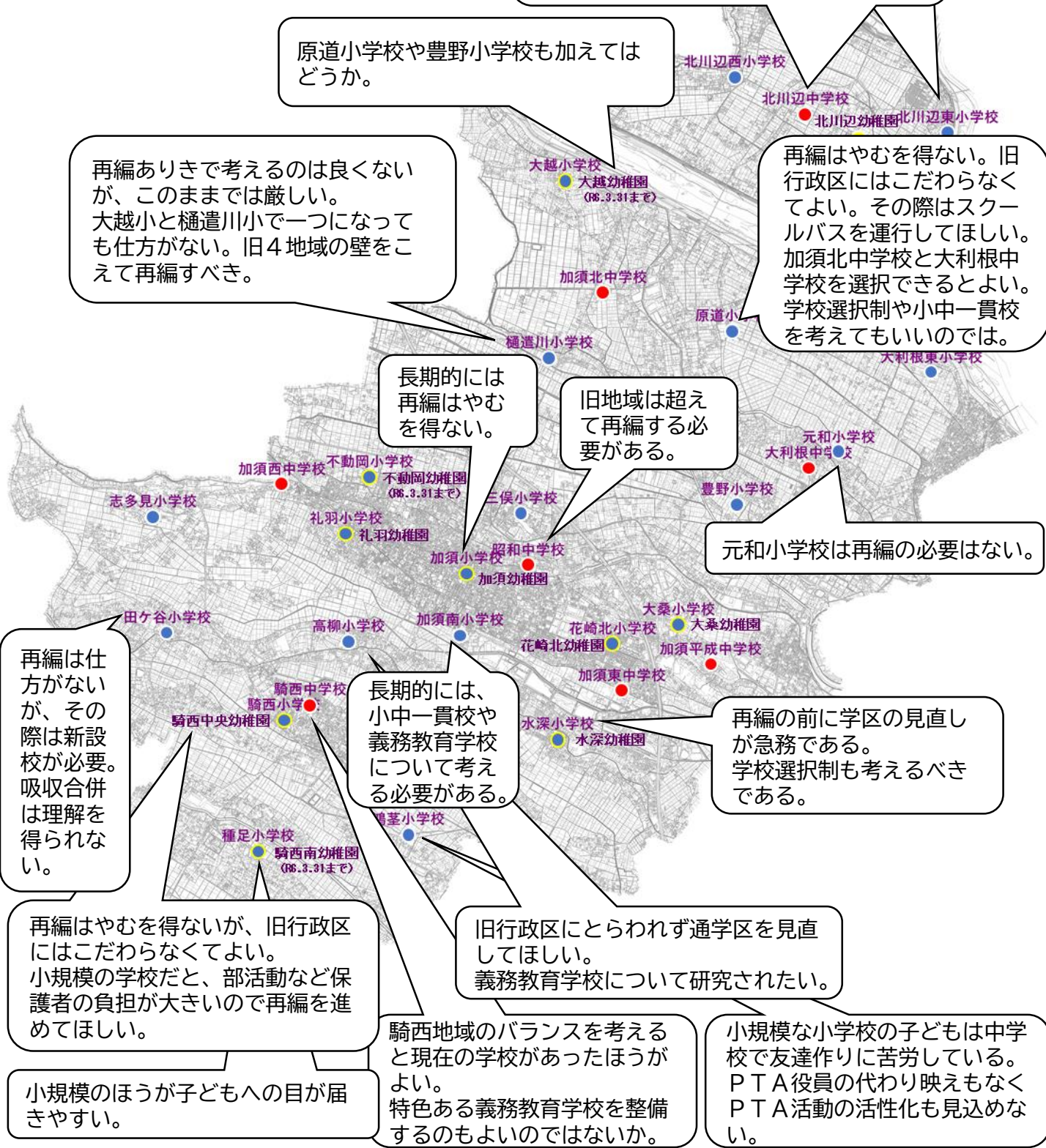
再編はやむを得ないが、旧行政区にはこだわらなくてよい。小規模の学校だと、部活動など保護者の負担が大きいので再編を進めてほしい。

旧行政区にとらわれず通学区を見直してほしい。義務教育学校について研究されたい。

小規模のほうが子どもへの目が届きやすい。

騎西地域のバランスを考えると現在の学校があったほうがよい。特色ある義務教育学校を整備するのもよいのではないかと。

小規模な小学校の子どもは中学校で友達作りに苦労している。PTA役員の代わり映えもなくPTA活動の活性化も見込めない。



意見交換会（幼稚園・小中学校評議員）における 学校の適正規模に関する意見

1学年3クラスあると理想的である。

複式学級は望まない。
先生が目が届く30人くらいで、クラス替えができるのが望ましい。

人間関係が壊れたときのことを考えると複数のクラスが必要である。

少なくともクラス替えができる規模がほしい。

小学校1クラスから中学校6クラスになり萎縮してしまった。居場所が見つけられない子どもは不登校なども心配される。

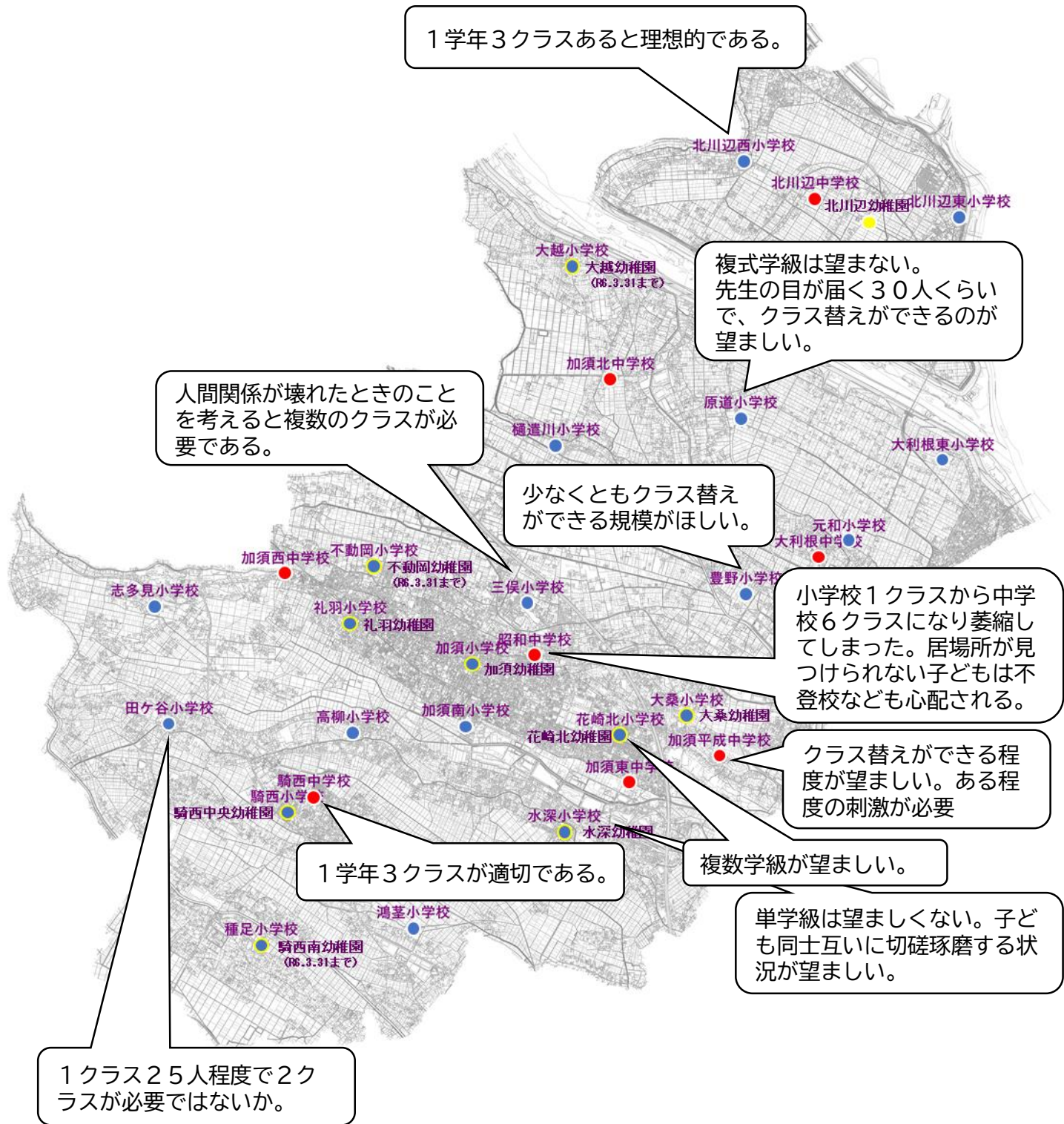
クラス替えができる程度が望ましい。ある程度の刺激が必要

1学年3クラスが適切である。

複数学級が望ましい。

単学級は望ましくない。子ども同士互いに切磋琢磨する状況が望ましい。

1クラス25人程度で2クラスが必要ではないか。



意見交換会（幼稚園・小中学校評議員）における 現状の課題に関する意見

子育て世代、外国の方、高齢者をケアする若い世代を呼び込むなど、市の対策を講じるべき。

人口増加策を考える必要がある。

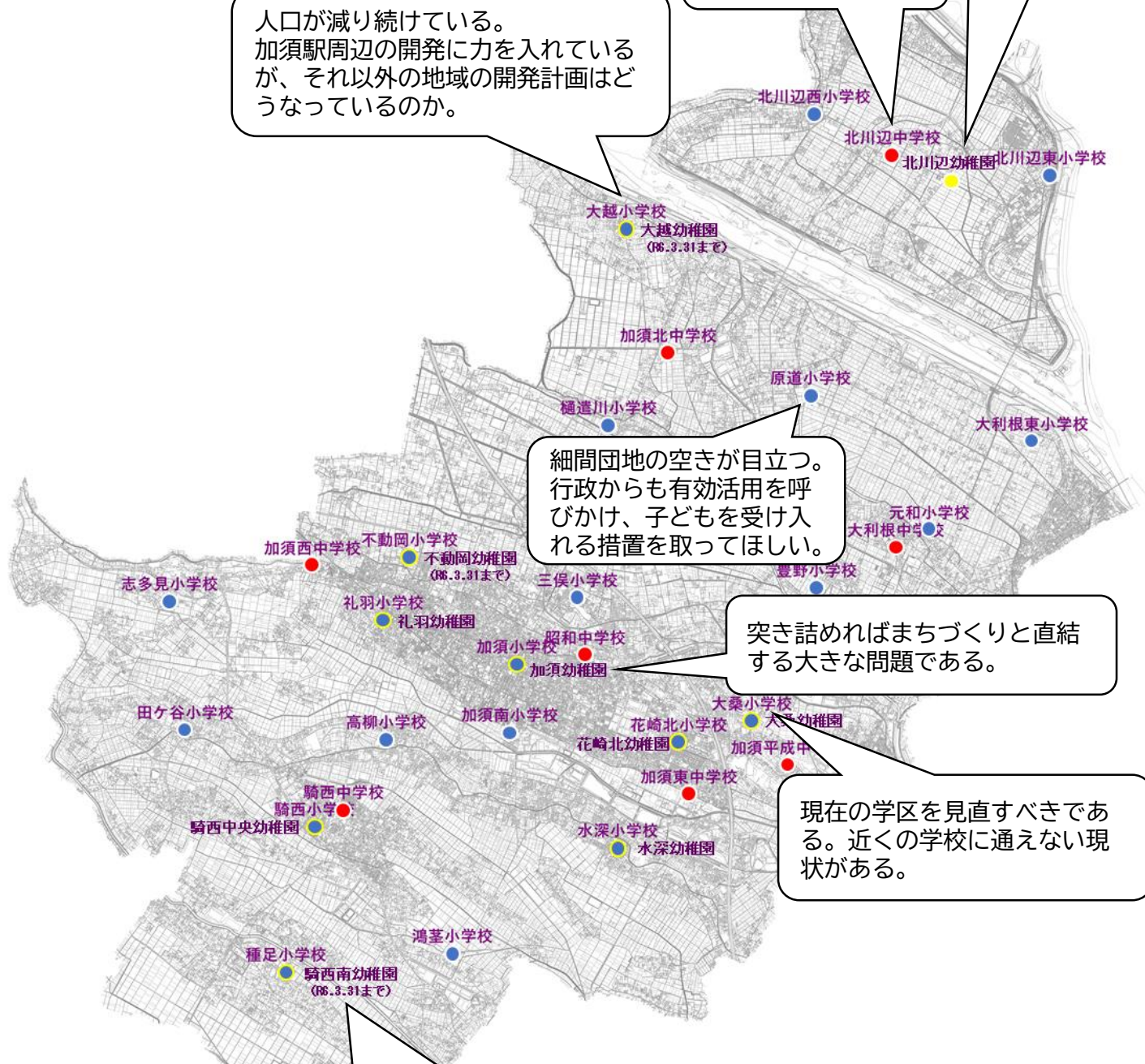
人口が減り続けている。
加須駅周辺の開発に力を入れているが、それ以外の地域の開発計画はどのようなものか。

細間団地の空きが目立つ。
行政からも有効活用を呼びかけ、子どもを受け入れる措置を取ってほしい。

突き詰めればまちづくりと直結する大きな問題である。

現在の学区を見直すべきである。
近くの学校に通えない現状がある。

地域で住宅開発ができるようにしてほしい。



意見交換会（幼稚園・小中学校評議員）における その他の意見

再編は進め方が最も重要になる。
一番に子どもたちの気持ちを考え、判断してほしい。

近所に子どもがいないと登下校が1人で、保護者が不安で送り迎えをすることとなり、負担となってしまいます。それが原因で引越しを検討することとなるため、送迎バスが必要。

将来社会に出たときのことを考えると、余りにも小さな中で育ってしまうと社会の荒波に耐えられない子も出てくる。

小規模校としてのメリットを把握しながら、児童生徒にとって何が大切かを考えていくべき。学校の統合をする場合には、学校名は大きな問題である。

他市と違う教育をすることで児童増につながるのではないかと。コミュニティバスを登下校に使えるような仕組みを作っても面白いのではないかと。

使わなくなった教室や校舎をどのようにするのか。

通学における安全のケアを図ってほしい。

コスト面も考えるべき。小規模校とはいえ、経費がかかっていることを示すべき。

子どもの目線を大事にしながら決定してほしい。

学校の再編は、子どもたちの意見も聞いてほしい。小規模校のデメリットを解消するため、志多見小や騎西小との合同行事を考えてほしい。

学校間の交流をもっと行ってほしい。

水深地域の中でも宅地開発されている地域と農業地域があり、差が顕著であるため、スクールバスを運行してほしい。

小規模な学校同士の交流会などを検討してほしい。

再編が進んだ場合、地域との関りやそれぞれの学校の伝統をどのように守っていくのが課題である。

